

多くの人が予想外の幸福感の上昇を感じるのは絆が深まったときによつてです。著者は金沢星稜大学の石野卓也、青山学院大学の亀坂安紀子、京都大学の村井俊哉と、東日本大震災が幸福感に与えた影響について共同研究しています。主な資料は慶応義塾大学経済学部のグループが中心となり2011年6月に実施した「東日本大震災に関する特別調査」です。「自分は幸福だと思ふ」という幸福感、「最

やさしい こころと**経済学**

第2章 倫理観・価値観と絆 7

慶応義塾大学教授 大垣 昌夫

近の生活に満足している」という生活満足度、「他人のことを第一に行動する」という利他性に関する質問を震災前の同年2月時点と同年6月時点についてどの程度、自分にあてはまるか聞いています。約7割の人の幸福感は変化しませんが、変化した人の中では幸福感が上がる人

が多かったのです。利他性が上昇した人は被災者へ寄付する傾向があり、幸福感も上がる傾向にありました。この調査では、表にあるように幸福感と満足度で異なる動きもありました。震災後、生活満足度が下がったとの回答は14.5%なのに対し、幸福感が下がったとの回答は4

震災は幸福感に影響

		幸福感			合計
		下がった	不変	上がった	
満足度	下がった	3.5%	7.2	3.8	14.5
	不変	0.8	55.1	10.0	65.9
	上がった	0.3	5.3	14.1	19.7
	合計	4.5	67.6	27.9	100.0

(出所)「東日本大震災が生活満足度と幸福感に与えた影響」
(注)四捨五入の関係で合計が合わない場合がある

・5%でした。また、満足度が不変だったり下がったりしていても、幸福感は上昇した

人が13.8%もいます。この結果の有力な解釈として、満足度は自分の消費に依存する効用に対しては、幸福感は効用だけではなく、利他性が上昇して絆が深まることとエウゲイモニア（充実感）も上昇すると考えられます。節電などで生活満足度が低くなる中、全国で70%以上もの人が被災者のために寄付をしました。このことが、予想外の幸福感の上昇につながったのだと思います。